

サステイナブルな 開発教育の誕生

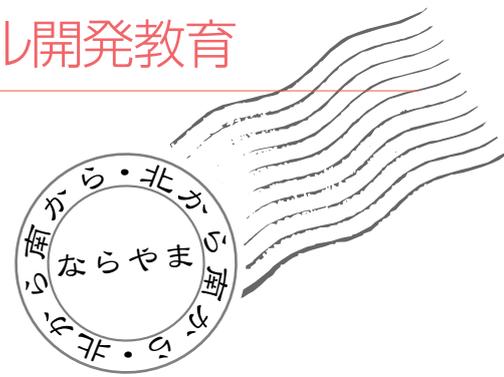
私は、2005年3月末から9月初旬まで、海外先進教育研究実践支援プログラムにより、英国ウェールズのカーディフ市で研究・調査を行いました。ご存知のように英国はイングランド、ウェールズ、スコットランド、北アイルランドの連合王国で、それぞれ都市計画などの法律体制が異なりますが、全体的に1990年代より「サステイナブルな開発」を推進することが都市・地域計画の中心的な原理となってきました。英国ではもともと環境教育が盛んでした。しかし、1990年代早期から、環境教育は自然現象に加えて、都市問題、民族政治的課題を含んだ、グローバルな次元が加えられ、サステイナブルな開発に関する教育が出現したのです。以下では、英国におけるサステイナブルな開発教育を概略します。

ウェールズ語の教育

カーディフ市はウェールズの首都です。ウェールズの歴史はイングランドとの戦争の敗北の歴史と言ってもよく、一時はウェールズ語が禁止されていました。そのためか、現在学校ではウェールズ語教育に力が入れられており、英語とウェールズ語の看板があります。しかし、人々にウェールズ語を使用しているかと問うと、ほとんどが否定していました。歴史的アイデンティティを言葉によって保つことは、困難な問題です。

イギリスの サステイナブル開発教育

社会科教育講座・教授
根田 克彦



小学校でのエコ・スクール実践活動

サステイナブルな開発教育は、特定の科目として教えるのではなく、科目横断的な扱いがされています。ウェールズでは、「サステイナブルな開発とグローバル市民のための教育」という指針が出され、そこで市民教育という科目と、サステイナブルな開発教育との関係が示されました。目標は、①サステイナブルな方法で自然資源をいかに管理するか、②世界の不平等をなくし、人間の権利をいかに保護するか、③互いに理解し合い、いかに平和なコミュニケーションを発展させるか、です。これらはローカルな問題であると同時にグローバルな問題で、自分が関わる問題です。また、EU全体で運動を展開しているエコ・スクールというプログラムもあり、これは環境的な管理の保証とサステイナブルな開発教育のための

サステイナブルな 開発教育の実践

ものです。このプログラムでは、学校とコミュニティにおける環境改良に児童・生徒が実際に関わります。リサイクル、ビオトープの建設、グリーン運動の啓発活動に力を入れている学校も多くあります。このように、英国では環境教育という枠組を発展させて、グローバルな視点から、資源問題、人権問題をも含めた幅広い枠組でサステイナブルな開発教育を行っていることが分かります。



英語とウェールズ語の道路標識



小学校におけるグリーン・デイ